

第2回 中津市学校のあり方検討委員会

令和6年9月26日

中津市教育委員会

開催スケジュール（予定）

- ・ 第1回（令和6年8月19日）

学校規模の考え方
本市の状況
進め方のポイント

- ▶ 第2回（令和6年9月26日）

事例紹介（大分市）

論点整理（現状、課題、方向性等）

- ・ 学校視察（令和6年11月上旬）
- ・ 第3回（令和7年2月頃）
今後の進め方の検討①（対象校の考え方、プロセス等）
- ・ 第4回（令和7年3月頃）
今後の進め方の検討②（再編の効果、跡地活用等）
- ・ 第5回（令和7年4月頃）
素案について
- ・ 第6回（令和7年5月頃）
成案について

次第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議事
 - (1) 事例紹介 . . . P 4
 - (2) 論点整理 . . . P 8
 - (3) その他
4. 閉会

(1) 事例紹介 (大分市)

中津市の学校のあり方を検討するにあたり、制度及び大分県内の事例として、大分市教育ビジョン2017～第Ⅱ期基本計画～に基づく、大分市の取り組みについて紹介します。

大分大学教育学部 伊藤安浩教授

- ①小規模特認校、小中一貫教育校義務教育学校 ～大分市を例に～
- ②背景と根拠 ～「学校種ごとの独自性の追求」から「学校種間の円滑な接続」へ～
- ③小中一貫教育のメリットとデメリット

(1) 事例紹介 (参考) ①

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 (H27.1.27 文部科学省)

学校規模の適正化に関する基本的な考え方 (手引P3)

【教育的な観点】

○学校規模の適正化の検討は、様々な要素が絡む困難な課題ですが、飽くまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきものです。各市町村においては、これからの時代に求められる教育内容や指導方法の改善の方向性も十分勘案しつつ、現在の学級数や児童生徒数の下で、具体的にどのような教育上の課題があるかについて総合的な観点から分析を行い、保護者や地域住民と共通理解を図りながら、学校統合の適否について考える必要があります。

(1) 事例紹介 (参考) ②

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 (H27.1.27 文部科学省)

3章 学校統合に関して留意すべき点 (手引P18)

【基本的な考え方】

○学校は児童生徒の教育のために設置されている施設であり、学校統合の適否の検討に当たっては児童生徒の教育条件の改善の視点を中心に据えるべきですが、地域住民から見た学校は、地域社会の将来を担う人材を育てる中核的な場所であるとともに、防災、保育、地域の交流の場など様々な機能を有している場合も多く、学校づくりがまちづくりと密接に関わる場合も多いところです。

○もとより、子供に求められる資質や能力は、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものであり、学校のみで育成できるものではありません。加えて、近年の社会の変化に伴い、多様化・複雑化するニーズに学校の教職員や教育行政の力だけで対応していくことは困難となっており、学校がその目的を達成するためには、保護者・地域住民等の支えが必要となっています。

(1) 事例紹介 (参考) ③

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 (H27.1.27 文部科学省)

3章 学校統合に関して留意すべき点 (手引P18)

【基本的な考え方】 (つづき)

○ さらに、近年の教育改革により学校現場の裁量が拡大している中において、公費で運営される公立学校をモニタリングする主体として、保護者・地域住民等の学校関係者が学校運営に関わっていくことの重要性が一層増してきています。

○ こうした中において「地域とともにある学校づくり」が求められていることを踏まえれば、学校統合の適否を検討する上では、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域住民や地域の学校支援組織と教育上の課題やまちづくりも含めた将来ビジョンを共有し、十分な理解や協力を得ながら進めていくことが大切になってきます。

(2) 論点整理①

【論点の整理の考え方】

前回の検討委員会で出された意見をもとに、その意見を掘り下げ、検討委員会の意見として整理を行います。

学校の適正規模の考え方や学校再編に係る方向性は、最終的に、教育委員会において決定するため、検討委員会の意見は、教育委員会に対し、教育委員会が方向性を検討するにあたっての意見や要望等の総論となります。

なお、今後も検討委員会の中で、論点の整理を積み重ねていくため、今回の論点の整理が最終的な検討委員会の意見となるわけではありません。また、検討委員会での意見は、一つの案件に異なる意見があっても構わず、論点の整理や意見交換を進めていく中で、検討委員会としての考え方を整理するものとなります。

(2) 論点整理②

▶ 学校規模のあり方の検討における目的・考え方について

【委員意見】

- ・ 児童生徒の推移を見て、旧下毛地区は、転入が少ないと思うので、現実的に考えないといけなと感じた。
- ・ 今後の考え方として、財政の問題、校区の問題（選択制）を含めて検討していくのか。
- ・ 過小規模校は存続も含め検討するのか。

【事務局】

- ・ 財政や校区の問題もあるが、子どもたちの教育にとって何が1番良いのかという観点で、様々なご意見をいただきたい。

【論点整理】

- ・ 少子化に対応した学校規模のあり方の検討について
- ・ 財政問題の検討の必要性について
- ・ 過小規模校の存続・校区選択制の必要性について

(2) 論点整理③

▶ 通学路・通学支援について

【委員意見】

- ・スクールバスの関係や統合後の通学距離とかも親の負担等を考え、今後、話し合っていければと思う。

【論点整理】

- ・通学路の安全性の確保

- ・通学による児童生徒や保護者の負担軽減

(2) 論点整理④

▶学校再編に係るプロセス・フロー

【委員意見】

- ・保護者については思いが熱く、色々な意見がある。今後会議を進めていく中で、担っているものが大きく、頭が重たくなっているのが現状である。
- ・統廃合ということについての保護者意見を集約したことがあるのか。

【論点整理】

- ・学校再編成に関する地域や保護者の合意の必要性

- ・学校再編成前、学校再編後の検証（教育環境、意識等）の必要性

(2) 論点整理⑤

▶ 学校跡地の活用

【委員意見】

- ・ コミュニティの拠点、防災の拠点等の考え方に関する提示は可能か。
- ・ 山国の統合後、地域がどう変わったのか、廃校後の活用など山国の現状を今後事例として示していただきたい。

【論点整理】

- ・ 跡地利用の考え方